

令和4年度 全国学力・学習状況調査の結果の公表について

平戸市教育委員会

I 調査の概要

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 教科に関する調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童（国語・算数・理科）、及び中学校第3学年の生徒（国語・数学・理科）
- (2) 出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とする。
- (3) 出題内容：以下の①と②を一体的に問う。
 - ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
 - ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- (4) 出題形式：国語・算数・数学、理科では、記述式の問題を一定割合で導入する。

3 質問紙調査

- (1) 調査対象：小学校第6学年の児童及び中学校第3学年の生徒
- (2) 調査内容

児童・生徒に関する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

4 調査日

令和4年4月19日（火）

5 平戸市の調査実施校・児童生徒数

小学校 230(15校) 中学校 213人(8校) 計443人(23校)

II 平戸市の結果の概要

1 平均正答率の全国との比較

校種	小学校			中学校		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
結果 (本市)						
結果 (全国)	65.6	63.2	63.3	69.0	51.4	49.3

※結果(本市)の平均正答率は、全国平均正答率以上の場合、「+」を表示。

<結果の総括>

小・中学校ともに、全国平均を超える教科はなかった。小学校では、国語で「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、算数では「図形」、理科では「生命」において、中学校では、国語で「読むこと」、数学と理科は全ての領域において、全国平均を大きく下回っている。

2 各教科別の成果と課題及び改善策

【小学校】

教科	成果:+5.0以上 (○) 課題:-5.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)
国語	<p>○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う。 〔3三〕</p> <p>●必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいこと の中心を捉える。 〔1Ⅲ〕</p> <p>※話し合いでは、異なる立場からの考えを聞き、様々な視点から検討した 上で、自分の考えを広げたりまとめたりすることが大切である。その 際、互いの立場や考えを尊重しながらも、自分の考えを伝えたり必要 なことを質問したりする力も求められる。また、話し合いを通して、言 葉には相手とのつながりをつくる働きがあることや、話し言葉では誤 解されやすい同音異義語を避けるとよいことに気付くことができるよ うに指導することも重要である。</p> <p>●登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える。 〔2一(1)〕</p> <p>●登場人物の相互関係について、描写を基に捉える。 〔2一(2)〕</p> <p>※物語などを読む際には、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」に関 する指導事項の系統を踏まえて指導することが重要である。「構造と</p>

	<p>内容の把握」については、第1学年及び第2学年では、場面の様子や登場人物の行動などを、第3学年及び第4学年では、登場人物の行動や気持ちなどを、第5学年及び第6学年では、登場人物の相互関係や心情などを捉えることが大切である。「精査・解釈」については、第1学年及び第2学年では、登場人物の行動を、第3学年及び第4学年では、登場人物の気持ちの変化や性格、情景を具体的に想像したり、第5学年及び第6学年では、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることが大切である。</p>
<p>教 科</p>	<p>成果:+5.0以上 (○) 課題:-5.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)</p>
<p>算 数</p>	<p>○百分率で表された割合を分数で表すことができる。 〔2〕(1)〕 ●示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察できる。 〔1〕(4)〕 ※日常生活の問題を解決するために、算数で学習したことを基に、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることが重要である。そのために、例えば、目的に応じて問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場面であると解釈して、除法を用いたり、切り捨てや四捨五入などの数の処理の仕方を考えたりすることができるようにすることが大切である。また、数の処理において、具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりすることができるようにすることも大切である。 ●百分率で表された割合と基準量から、比較量を求めることができる。 〔2〕(2)〕 ※割合を用いて問題を解決するためには、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理することが重要である。そのために、例えば、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間を表現したりすることができるようにすることが大切である。また、伴って変わる二つの数量の間に比例の関係があることを見だし、その比例の関係をj用いて、未知の数量を求めることができるようにすることも大切である。 ●図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している。 〔4〕(3)〕 ※図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることが重要である。また、図形の構成の仕方について考察することも重要である。そのために、例えば、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるように</p>

	<p>することが大切である。また、辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断したり、作図の仕方を筋道を立てて説明したりすることができるようにすることも大切である。</p>
教科	<p>成果:+5.0以上 (○) 課題:-6.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)</p>
理科	<p>○メスシリンダーという器具を理解している。 [2] (1)]</p> <p>○日光は直進することを理解している。 [3] (1)]</p> <p>●提示された情報を、複数の視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。 [1] (4)]</p> <p>※情報を分析して、解釈するために、複数の視点をもって比較し、差異点や共通点を見だし、それらを基に、分類できるようにすることの重要性について意識して授業を改善することを意図している。</p> <p>●観察などで得た結果を、他者の気づきの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる。 [1] (5)]</p> <p>※既に獲得している情報と新しく得た気づきから問題を見いだしていくために、気づきを十分に把握し、それぞれの気づきの視点を明確にすることの重要性について意識して、授業を改善することを意図している。</p> <p>●メスシリンダーの正しい扱い方を身に付けている。 [2] (2)]</p> <p>※器具の名称を確認し、それを使用する場面を設定すること、器具や機器などの操作にどのような意味があるのかを理解すること、そして、これらを踏まえ、定性と定量といった視点で物事を捉え、目的に応じた実験を行い、知識及び技能を高めながら問題を解決していくことについて意識して授業を改善することを意図している。</p> <p>●自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる。 [2] (3)]</p> <p>※観察、実験などの後に結論を導きだすときに、予想と照らし合わせながら結果を捉えたり、自他の考えの比較を通して、自分の考えを見直したりしながら、多面的に考えるといった考え方を働かせて考察を行い、問題を解決できるようにすることの重要性について意識して授業を改善することを意図している。</p>

【中学校】

教 科	成果:+3.0以上 (○) 課題:-5.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)
国 語	<p>○文脈に即して漢字を正しく書く。 [2]二②</p> <p>●場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉える。 [3]三</p> <p>※「C読むこと」の学習においては、「構造と内容の把握」、「精査・解釈」、「考えの形成、共有」に関する各指導事項を身に付けることができるように、意図的・計画的に指導を重ねることが大切である。指導計画の作成に当たっては、各学年で説明的な文章や文学的文章などの文章の種類を調和的に取り扱う必要がある。その際、生徒の日常の読書活動に結び付くようにすることも重要である。文学的文章を読み味わう際には、個々の場面や描写から直接分かることを把握するだけでなく、複数の場面を相互に結び付けたり、各場面と登場人物の心情や行動、情景等の描写とを結び付けたりすることによって、場面や描写に新たな意味付けを行うことが重要である。</p>
教 科	成果:+0.1以上 (○) 課題:-10.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)
数 学	<p>●自然数を素数の積で表すことができる。 [1]</p> <p>※事象を数や式を用いて考察する場面では、数を和や積に表すなどして数量の関係を捉え、事象の特徴を読み取り、説明することが大切である。</p> <p>●簡単な連立二元一次方程式を解くことができる。 [2]</p> <p>※連立二元一次方程式を用いて具体的な問題を解決する場面では、立式した連立二元一次方程式について、二つの文字のうち一方の文字を消去し、一元一次方程式に帰着させて解くといった方針に基づいて連立二元一次方程式を解くことが大切である。</p> <p>●箱ひげ図から分布の特徴を読み取ることができる。 [7](2)</p> <p>※日常生活や社会の事象を考察する場面では、データやグラフなどを適切に読み取り、データの傾向を捉え、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することが大切である。</p> <p>●証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している。 [9](1)</p> <p>※図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、論理的に考察し、それを数学的に表現することが大切である。</p>
教 科	成果:+2.5以上 (○) 課題:-6.0以下 (●) [設問番号] 改善策 (※)
理 科	<p>○力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を矢印で表し、その力を説明できるかどうかをみる。 [5](1)</p> <p>●日常生活や社会の中で物体が静電気を帯びる現象を問うことで、静電気に関する知識及び技能を活用できるかどうかをみる。 1</p>

	<p>※身に付けた知識と日常生活における経験を関連付け、身近な事象の中に問題を見いだして課題を設定し、科学的に探究する過程を通して、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。授業では、実験を計画する際に、事象の観察を通して抽出した要因を整理して、適切に条件を制御することが考えられる。</p> <p>●水を電気分解して発生させた水素を燃料として使う仕組みを探究する学習場面において、粒子の保存性の視点から化学変化に関わる水の質量が変化しないことを、分析して解釈できるかどうかをみる。 〔3〕(2)〕</p> <p>※身に付けた知識及び技能を分野や領域を横断して関連付け、身近な事象を多面的、総合的に捉えることが大切である。授業では、身近な事象として水素を燃料として使うしくみの例を取り上げた学習場面を設定するなど、化学変化に関する知識及び技能と、「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能とを関連付けて、科学的に探究することも考えられる。</p> <p>●課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかをみる。 〔5〕(2)〕</p> <p>※科学的に探究する活動を通して見いだした規則性や関係性を、日常生活や社会と関連付けることで、理科を学ぶことの意義や有用性の実感を高めることが大切である。授業では、見いだした規則性や関係性を基に、身近な道具や技術などから新たな問題を見だし、課題を設定して科学的に探究することが考えられる。</p>
--	---

3 児童・生徒質問紙による児童・生徒の特徴（全国の割合との比較）

（○：高い状況 ●：低い状況）

【児童】

- 朝食や就寝時間など基本的な生活習慣を意識して生活している。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いつつも、学校でも活用している割合が**低い**。
- 国語や算数、理科の学習は大切であると理解しながらも、算数の学習内容の理解に消極的な意見が多い。
- 算数の回答時間が足りなかったと感じている児童の割合が多い。

【生徒】

- 朝食や就寝時間など基本的な生活習慣を意識して生活している。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思

い、学校でも活用している割合が高い。

- 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。
- 国語や数学、理科の学習は大切であると理解しながらも、学習内容の理解に消極的な意見が多い。
- 国語、数学、理科の回答時間が足りなかったと感じている生徒の割合が多い。

Ⅲ 平戸市の今後の取組

- 1 各学校の調査結果及び市全体の調査結果の分析による課題の把握
※全国学力・学習状況調査、長崎県学力調査、平戸市学力調査
- 2 各学校で作成する『学力向上プラン』の内容の精査及び実践に対する指導助言
- 3 各種研修会（管理職研修会、教務主任研修会、研究主任研修会等）における学力向上に関する指導助言
- 4 ICT機器を効果的に活用した授業改善のための研修会の実施
- 5 平戸市学力向上会議の開催とそれを受けての各学校への指導